



こんにちは
町長です

秩父札所34観音霊場 午歳総開帳について

本年3月18日(水)から11月30日(月)までの期間で、秩父札所34観音霊場の12年に1度の午歳総開帳が始まりました。この総開帳の期間は、どなたでも観音様のお姿に直接お参りすることができ、江戸時代から続く伝統行事となっています。

秩父札所は、鎌倉時代の文暦元年(1234年)3月18日に開創されたとのことで、本年の午歳総開帳が3月18日から始まったのも、この開創日に合わせているからとのことです。秩父札所は江戸時代には庶民の心の支えとして信仰を広く集め、関所を越えることなく気軽に行け、江戸からの距離も近いことから多くの人々が秩父札所の巡礼に訪れました。昭和、平成、令和と続く現在でも巡礼に加えて、観光や御朱印巡りとして秩父札所巡りを楽しむ人が増え「巡礼文化」が定着しており、秩父地域の観光資源の代表的なひとつとなっています。

秩父札所は、秩父市内に25寺、横瀬町内に6寺、小鹿野町内に2寺(札所31番観音院、札所32番法性寺)、皆野町内に1寺に点在し、札所1番から34番までの一巡約100キロメートルの巡礼道となっています。また、室町時代後期には、西国33か寺、坂東33か寺、秩父34か寺と合わせて日本

100観音霊場が成立したとされています。

去る3月1日には、日本の「巡礼文化」を担う西国、坂東、秩父の日本100観音霊場、四国88観音霊場、台湾33観音霊場などが一同に会して「巡礼サミット」が秩父神社で開催され、国内外で巡礼文化を広げていくための友好協定も締結されました。秩父札所は、西国や坂東の札所と違って地域がコンパクトにまとまっており、江戸(東京)からも至近距離にあること、更に西国、坂東と合わせて100観音にするために34か寺にしたことなど先人の知恵が詰まった観音霊場となっていることが、今日まで続けてこられた大きな要因になっているものと思います。小鹿野町では、午歳総開帳にあわせて札所周辺の公衆トイレの改修や道路改修なども行い、秩父地域1市4町で組織する秩父地域おもてなし観光公社では「12年に1度 秩父地域がパワースポットに!秩父札所午歳総開帳2026プロジェクト」が国観光庁の補助事業に採択され、デジタルスタンプラリー、多言語対応のQRガイド、オリジナルグッズの制作などを進めております。秩父札所午歳総開帳が巡礼者にとって心のいやしと願いを叶える旅となるとともに、秩父地域のPRや地域活性化につながるよう努めて参りたいと存じます。

小鹿野町長 森 真太郎